

## 会議の経過

### 議題・決定又は確認事項等

#### 【開会】

午後 1 時 3 0 分

#### 【会長あいさつ】

桑原会長より挨拶

#### 【議事】

事務局：①ニーズ調査集計結果について、説明

委員：幼稚園の預かり保育の割合が 6. 1 % とあるが実数で言うとどれくらいか。

事務局：約 4 0 人。

委員：ニーズ調査を 2 つ送ってきたという話を聞いたが。

事務局：できるだけ 2 つ届かないように除いたが、幼稚園から名簿をお借りするわけにいかないの、数件そのようなケースが発生した。

委員：自分の子どもが通っている幼稚園等が通常の幼稚園等なのか認定子ども園なのかどうかは、保護者の方は認識していないのではないか。

事務局：認定子ども園という括りで、ニーズ推定するのは難しいと思っている。認定子ども園と幼稚園を足し合わせた括りでの集計となると思う。

委員：保護者の方はファミリーサポートセンターがどういう施設かわからない方が多いのではないか。

事務局：ニーズ調査では、「地域住民が子どもを預かる事業」と書いたが、これではわからなかったかもしれない。しかし詳しく書きすぎると、読み解くのが難しい。難しいところである。

事務局：②-1 教育・保育提供区域の設定について、市全域を 1 区域とする案を説明。

※委員から特に意見はなく、岩出市の教育・保育提供区域の設定については、市全域とすることとなった。

事務局：②-2 認定にかかる就労時間の下限について、6 4 時間とする案を説明。

委員：月 6 4 時間以上働いていないと、短時間利用にもならないということか。

事務局：そうなる。これは現行の保育所入所条件と同じ時間数である。

委員：業績等により一時的にそれより短い勤務時間となった場合はどうなるのか。

事務局：毎月チェックするわけではないが、申告の段階では月64時間以上である必要がある。

委員：新制度のスタート時点ではこれでよいと思うが、将来的には全国的にもより短い時間とする必要が出てくるのではないか。

委員：ニーズ調査結果、ほとんどが月64時間以上の就労者なので下限を64時間とするとの説明であったが、逆に保育所の入所条件が64時間以上となっているから、64時間以上の就労が多いだけなのではないか。

委員：就労時間の下限が64時間と48時間では、保育料が変わってくるのか。

事務局：保育料にダイレクトに反映するということはないかと思う。それよりも、対象児童数が大幅に増えることにより建物等の増築や保育士の増員等が必要になった場合に、市の財政負担が非常に大きくなる。どのくらい増えるかにもよるのでそのあたりの見極めが重要となる。

委員：この計画は、5年計画であり、初年度は64時間で、将来的には状況を見ながら修正を検討するということかどうか。

委員一同：異議なし

事務局：③その他（今後のスケジュール等）について、説明。

委員：このタイムスケジュールは、タイトな気がする。

事務局：中身については、もう少し検討する。国自体の進捗が予定より遅れており、その分自治体の検討や作業の時間が無くなってきている。

#### 【その他】

次回は、5月中旬に会議開催する。

#### 【閉会】

午後3時に閉会